

た。北陸保健衛生研究所が昨年2月の稼働から11カ月間のCO₂排出量を調べた。

地中熱利用ヒートポンプは外気温に比べ、年間を通じて15度と安定している地中熱(地下水)を活用した給湯、空調設備。カナイワが提携先のゼネラルヒートポンプ工業(名古屋市)の製品を初めて同病院に設置した。

同研究所がCO₂排出量を計測したところ、昨年2月から11カ月間の排出量が374トンド、前年同期を37%下回ったという。カナイワは「今後も地中熱利用の促進を呼び掛け、CO₂削減に貢献したい」としている。

カナイワ 地中熱ヒートポンプ利用 CO₂を37%削減

建設業のカナイワ(金沢市)は3日まで「地中熱利用ヒートポンプ」の効果によって、同病院の二酸化炭素(CO₂)排出量を37%削減したと発表し、同社が同市の映寿会みらい病院に給湯、空調設備として設置し

北國新聞 2010年2月4日 に掲載されました